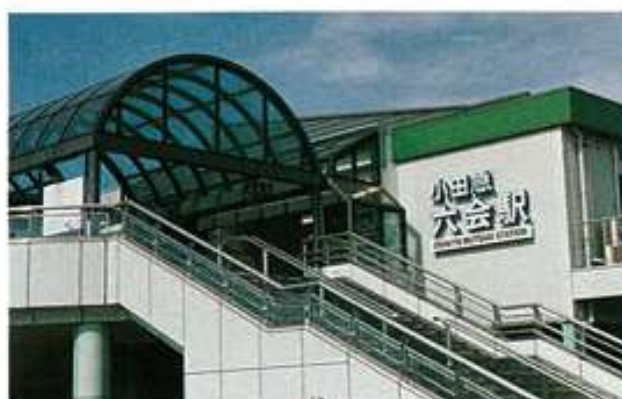


日本大学 農獣医学部 校友会会報

第48号



《目 次》

平成7年度総会と懇親会.....	2	工学会（農業工学科）.....	12
学部名称変更と50周年記念事業.....	3	FT会（食品工学科）.....	13
学部執行部.....	3	拓友会（拓植学科）.....	14
アニマルメディカルセンター.....	4	むつあい会（短期大学部農学科）.....	15
農学校友会（農学科）.....	5	生活環境学科校友会	
紫友会（農芸化学科）.....	6	（短期大学部生活環境学科）.....	16
角笛会（獣医学科）.....	7	応用生物科学科校友会	
満喜葉会（畜産学科）.....	8	（応用生物科学科）.....	17
いもづる会（食品経済学科）.....	9	支部だより.....	18
林学科校友会（林学科）.....	10	校友会役員・事務局名簿.....	21
桜水会（水産学科）.....	11	校友通信コーナー.....	22

平成7年度総会と懇親会



東京・新宿のホテル・センチュリーハイアット『天平の間』で開かれた平成7年度総会

平成7年度総会・懇親会は慣例に従い7月第2土曜日の平成7年7月8日15時より新宿ホテルセンチュリーハイアットで開催された。

総会は『天平の間』において木村事務局長の開会宣言に始まり茂澤会長挨拶、議長には茂澤会長が選出された後議事へと進行した。議事は平成6年度の一般経過報告、会計決算報告（収入36,240,243円、支出36,240,243円、基金積立金7,022,631円、名簿積立金16,053,218円）に関する報告がなされ、山根監事による監査報告があり承認された。

ついで平成7年度の事業計画に関して会員数65,676人、準会員数7,882人が報告された後、総会、懇親会、会報発行、名簿発行準備などが説明された。それらに必要な予算案として収入は39,229,034円、支出は39,229,034円、名簿積立金18,053,218円の予算案が示され審議の後承認された。さらに校友会役員の名称が理事から幹事、監事から監査の変更に伴う会則の改正、阪神大震災被災学生の入会金免除などが審議され承認された。その他世界獣医学大会が横浜で開催され、本学が見学コースに選定された事の対応策や、

林義謙台湾支部長より台湾出身の留学生に特待生・奨学生制度を設立したい旨が紹介された。

懇親会は『桃山の間』に会場を移し、60名の来賓と約120名の会員を迎え茂澤会長の挨拶の後、来賓として日本大学常務理事梶原長雄先生並びに農獣医学部長門田定美先生より祝辞を頂戴した。乾杯の音頭は前学部長久木田賢志先生の発声により歓談へと移った。本年は学部名称変更や六会駅の新装、湘南校舎の整備に伴う正門、アニマルメディカルセンター、駐車場、農場本部、水産実習棟の建築など学部発展に伴う話題が多く例年になく盛り上がりを見せた。最後は日比野次郎副会長の閉会の辞で名残つきの宴となった。



来賓の祝辞



『桃山の間』で開かれた懇親会

学部名称変更と 50周年記念事業

日本大学農獣医学部
校友会 会長

茂 澤 杲



平成7年3月28日、学校法人日本大学評議員会が大学本部で開催され、農獣医学部が学部名を生物資源科学部と変更、さらに、短大を含む13学科中7学科が、新学科名に変わることに萬場一致で承認可決され、文部省からこれが許可されれば、来年4月から新学部名、新学科名で発足することになりました。

この経緯については、平成7年3月16日の学部校友会臨時理事会に於て、門田定美学部長をお招きして、現今、農学を取巻く学問領域の拡大を背景に、学内でも執行部、教授会、学科主任研修会等の討議を経て決定した旨説明されました。学部名変更のポイントとして、①食糧資源の生産から流通にいたる分野の研究、②地球規模での自然生態系の保全等に関する分野の研究、③生命科学領域の基礎および応用に関する分野の研究等で活躍し得る人材の育成を目指すとされています。そして、21世紀NUSC(日本大学湘南キャンパス)計画構想が学部長により発表されました。

また、平成7年4月から、藤沢校舎を湘南校舎に変更することも評議員会で承認されました。思いますに、1993年以後をにらんで私大のいき残り作戦がマスコミを賑わしています。なにしろ、1992年の205万人をピークに2000年の151万人まで18歳人口が激減し、その落差およそ54万人

ピーク時の4分の1に相当するのだから、まことに容易ならざる事態到来です。おそらく、この様な状況下を充分把握されて、学部名学科名変更は踏切られた学部の姿勢は理解できます。校友の側からすれば問題は、魅力ある大学とはなにかということであって、大学が、学生(準会員)に対してなす最大サービスの、高度な研究に裏付けられた質の高い教育であり、それこそが大学の最大の任務であると思います。他方、平成12年にはじめて生物資源科学部の卒業生が誕生します。校友会は、発足する新学部名と現在の学部名を当分の間併用し、新学部名の準会員を支援育成していくことになります。また、各分会も学科名が変わるところでは、新旧併用されていくことになります。会則変更また附加作業も生じていくと思います。さて、平成10年には、日本大学農獣医学部校友会が創立50周年を迎えます。顧りみて、昭和63年創立40周年記念事業では、故佐藤弘一会長、故庄川洋一会長をはじめ、各役員、会員のご協力のもと記念事業の一環として、新形式による会員名簿と農獣医学部校友会40年略史の発行、更に、多数のご来賓をお迎えして、式典、祝賀会を京王プラザホテルで厳粛かつ盛大に開催しました。当時私が、会員名簿と40年略史の編集委員長を仰せつかり、故庄川洋一会長と高坂鉄雄事務局長の精力的なご尽力と関係スタッフのご努力に支えられ、40数回におよぶ会合が繰返され各委員の献身的ご協力を得て、名簿と40年略史の完成をみたことを懐かしく思い出します。おそらく、創立50周年には、先師先人達のこの輝かしい足跡の上に、さらに内容豊かな50年史と会員名簿の発行が出来ると思います。いずれにしても、これから提出される議案が、理事会、総会に於て承認され各委員会の設置がなされ、これが円滑に進展されますよう関係各位会員の絶大なご支援ご協力を切望したいと思います。

(日本大学評議員・本部校友会常任委員)

学部執行部

平成7年10月現在の学部執行部は、学部長・門田定美教授、事務局長職務代行・山内二夫参事、学務担当・出口吉昭教授、学生担当・石井賢治教授、研究担当・勝部泰次教授、東京校舎担当(大学院)・高橋正郎教授、就職指導担当・月瀬東教授、事務長・工藤幸吉参事、事務長(東京校舎担当)・大沼宏三郎参事、経理長・渡辺光男参事が、活躍されている。新しく任命された6名を含め、全執行部は次のとおりである。(※印は新任)



【学部長】

門田定美(65歳)教授。日本大学農学部水産学科卒業。担当科目は、海洋環境学。



【事務局長職務代行】

※山内二夫(58歳)参事。日本大学農獣医学部農業経済学科卒業。



【学務担当】

出口吉昭(66歳)教授。日本大学農学部水産学科卒業。担当科目は、水産増殖学概論。



【学生担当】

石井賢治(64歳)教授。日本大学農獣医学部農学科卒業。担当科目は、植物育種学。



【研究担当】

勝部泰次（65歳）教授。東京大学大学院生物系研究科修了。担当科目は、獣医公衆衛生学。



【東京校舎担当（大学院）】

※高橋正郎（63歳）教授。東京大学農学部農業経済学科卒業。担当科目は、食品市場論。



【就職指導担当】

※月瀬 東（53歳）教授。日本大学農獣医学部獣医学科卒業。担当科目は、獣医解剖学。



【事務長】

※工藤幸吉（62歳）参事。日本大学法学部法律学科卒業。



【事務長（東京校舎担当）】

※大沼宏三郎（62歳）参事。日本大学法学部法律学科卒業。



【経理長】

※渡辺光男（62歳）参事。日本大学理工学部機械学科中退。

アニマルメディカルセンター

角笛会会長 日比野 次郎

母校湘南キャンパスに長年検討されながら実現しなかった懸案の附属家畜病院の新設が決り、加えて9月に横浜で開催される「世界獣医学大会」の学術見学コースに母校が指名されたことが着工を促進した一つかも知れません。我が国では類を見ない家畜病院が完成し、延面積1,359㎡の2階建て5月10日には目出度く竣工式も終り、病院名もアニマルメディカルセンター（略称アンメク）と改名活動を始めしております。

アンメクの組織を大別すると、診療部、医療管理部、検査部、臨床教育部に分かれておりますが、獣医学科の教員や病院専属教員のみでは十分な診療業務の遂行は不可能であるので臨床経験豊富な学外の校友が非常勤講師として協力しております。

施設も今までの病院とは違って入院設備も完備昼夜患者の管理、又集中治療室（ICU）を新設し緊急時の治療が出来る様になり、それに伴う器具機械

も近代的なものが整っております。

1. カセットレスX線透視撮影装置TU41 2. 歯科用X線撮影装置MAX-FIN 3. コンピュータドラジオグラフィFCR-AC3 4. カラードップラー式超音波撮影装置EUB565A 5. コンピューター断層撮影装置CT-W450-10A 6. 磁気共鳴断層撮影装置MRI-Flex Art 0.5テスラ 7. X線照射治療装置MCF320、以上の様な医療の先端を行く器具を備えたアンメクに期待をしております。

特にMRI、CTを駆使して行う画像診断については他校の追随をゆるさないアンメクとなることを期待しており、角笛会も支援すべく準備は整っております。

校友は勿論のこと一般開業にも利用出来、地域社会に貢献出来る開かれたアンメクとなる様に学内、学外共に頑張ることが課題ではないでしょうか。



コンピューター断層撮影装置（CT）



磁気共鳴断層撮影装置（MRI）

農 学 校 友 会

◇農学科◇

連絡先 花内園芸学研究室
0466-81-6241 (内2101) 米田 和夫

平成7年度総会開催

平成7年度の総会は、平成7年6月24日(土)の理事会において提出事項の審議後、7月15日(土)に湘南校舎第1会議室で“総会にかわる幹事会”として開催されました。出席幹事から「幹事会の総数201名で委任状を含めて総会は成立したものの出席者が33名ではあまりにも寂し過ぎる。同期会の育成を通して参加者を増やすことを考えたかどうか」「学科名が変わるとしても農学校友会の名称まで変わったら私たちは死んでも死にきれない」と言った辛辣な意見も出されましたが提出事項は全て承認されました。

なお、総会には門田学部長も多忙の中おいでになり、ご理解とご協力を賜りたいということで学部・学科名の変更経過についての説明がありました。総会終了後は会場を学部食堂に移し来賓・招待者20数

名をお呼びしての懇親会となり、その席で農学校友会の発展にご尽力された高橋文次郎先生(後述)に感謝状と記念品が送られました。

「三三会」鬼怒川で開催

今回の「三三会」を鬼怒川で開催したという連絡がありましたので「三三会」について皆様にもご紹介したいと思います。この会の正式名称は「日大三三会」と称し、会員相互の親睦及び健康の維持・増進を図り、あわせて農学校友会の発展に寄与することを目的としたものであり、会員は農学科33期(昭和54年卒)の同期生及び同期入学者から組織されています。19条からなる会則をもち、活動を開始した農学校友会では比較的若い期です。しかし同期だけで独立した活動を計画しているのではなく、農学校友会との連絡を密にする職務(副会長4名のうち1名がこれにあたる)も設定されています。クラス会なるものがありこの会は持ち回りで開催地をきめ、開催地近県のもの世話人を努めるという。旗揚げするまでにはかなりのに苦労があったと聞いています。何かを築き上げていこうとしている「三三会」に声援を送ります。



鬼怒川温泉のクラス会

学 科 の 近 況

本年4月から米田和夫教授が学科主任に就任、兼平 勉先生が助教授に昇格されました。引き続き石井賢治先生が学科担当に、坪木良雄先生が農場長として活躍されています。長年、大学のためにご尽力いただいた高橋文次郎先生が昨年12月31日をもって定年、杉山美樹(旧姓高久)副手が6月に退職されました。

吉川 需元教授(造園学)は急性肺炎のため平成

7年6月4日に永眠されました。

享年79歳。ご冥福をお祈りいたします。

本年度は新生159名(女子67名)を迎え、農学科在学生総数は現在670名(女子270名)です。来春3月卒業予定の4年生は、校友の皆様もすでに御存知の通り例年になく就職で苦勞しております。どうかご援助とご協力を切にお願いいたします。

長い間、農学科としても懸案であった農場本部棟の建設が着々と進行しており、次号ではその全容を紹介できると思います。(藤井 秀昭)

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 植物栄養生理学研究室
03-3421-8121 (内 338) 長谷川 功

創立40周年記念式典及び パーティーを挙行

本会は昭和29(1954)年10月に農学科農産製造学専攻の卒業生の校友会として発足後、平成6年をもってめでたく創立40周年を迎えた。これを記念し昨年11月12日に「紫友会創立40周年記念式典及びパーティー」が開催された。同行事は東京湾遊覧船上でのクルージングパーティーとして取行われ、各分科会会長を初め、学部長以下執行部の諸先生方、さらには本学科を退職された先生の御臨席を仰ぎ、紫友会員約100名の参加を見て盛大に挙行された。

まず全員が日の出埠頭に集った後、船をバックに記念撮影。その後、場所を船上に移し記念式典が挙行された。茂澤晃会長の挨拶に続き、創立40周年を記念して創設された紫友会奨学生第一期生(前号に氏名掲載)の表彰が行われ、同会長から一人一人に表彰状が手渡された。その後、冨澤寿樹学部長、門田定美学部長、矢崎仁也学科主任からそれぞれ御祝詞を頂き、松坂泰明前教授の御発声により乾杯と相なり、式典を終えた。引き続きパーティーに入り、東京湾のすばらしい夜景を眺め、星空を仰ぎ、杯を傾け、しばし旧交を暖め合った。時の過ぎるのを忘れて語りつつも、江刺琢磨副会長の閉会の辞とともに船は着岸。再開を期して下船したのであった。

▼創立40周年記念クルージング



紫友会奨学生第2期生選考さる

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第2期生10名が、同奨学生選考委員会によって以下の通り厳正に選考された。

2年次 望月高宏、紙屋伸成、安田真紀

3年次 杉田由紀子、長島裕高、森本淑子

4年次 大西由紀子、彌永由利子、鎌田由紀子

大学院1年次 袴田航

なお、第2期奨学生の表彰が本年11月18日(土)の紫友会総会時に行われるので、会員各位の積極的参加を希望する。

農芸化学科の近況

人 事

学科主任及び専攻主任が4月1日付で共に改選された。矢崎仁也教授に代わり山本一彦教授(土壌学)が学科主任に、大石邦夫教授に代わり徳山龍明教授(微生物学)が大学院専攻主任にそれぞれ就任され、活躍されている。



渡辺晃代副手は3月31日付で退職され、木村みつ美副手が新たに就任された。木村副手は本年3月本学科卒業。

留 学

昨年7月から1年間の予定で米国ミシガン大学医学部に留学されている関泰一郎専任講師(栄養生理化学)は、その内外での活躍が評価され半年間の留学期間延長が認められた。来年1月に帰国の見込み。

会員の皆様にお願ひ

御高承の通り、学生を取り巻く昨今の就職環境は極めて厳しくなっている。このような時こそ会員の御支援が必要となろう。自社等で卒業生の採用を考えて頂ける会員諸氏は、上記連絡先迄御連絡願えれば幸いである。

(野口 章)

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医臨床繁殖学研究室
0465-81-6241 (内2123) 津曲 茂久

角笛会総会を開催

平成7年度の角笛会総会が、さる6月18日(日・父の日)に日本大学農獣医学部湘南キャンパスで開催された。本年度の総会は日大獣医学会との併催として企画・開催され、多数の会員が参加した。総会では、日比野次郎会長のあいさつの後、平成6年度の事業報告・決算および平成7年度の事業計画・予算案等が慎重に審議され、承認された。総会終了後、門田定美学部長をはじめ多数の来賓・会員が出席して懇親会が盛大に行われた。

湘南キャンパスに動物病院(アニマルメディカルセンター: ANMEC)が開設

本年5月、湘南キャンパスに動物病院(藤原公策院長)が開設された。鉄筋コンクリート造2階建て延床面積は1,359㎡の規模を誇り、最新かつ高度の医療機器が導入されている。具体的には磁気共鳴画像装置(MRI)、コンピューター断層撮影装置(CT)、コンピューターラジオグラフィ(FCR)、ドップラー型超音波診断装置(US)などである。さらに、集中治療室が設置されている。診療科目も細分化され、内科、外科、皮膚科、歯科、循環器科、整形外科、放射線科、臨床繁殖科、産業動物科等が設けられた。

新設されたアニマルメディカルセンター



科、放射線科、臨床繁殖科、産業動物科等が設けられた。

6月18日の本会総会時にANMECの内部が参加者に披露された。また、同日に併催された日大獣医学会のポスターセッションはANMEC 2階の研修室で行われた。

本会からANMECにCTを寄贈

母校の付属動物病院(ANMEC)の新築に伴う

記念事業(小暮規夫委員長)が昨年の10月にスタートし、CTを寄贈するために目標額3,000万円の募金を行ったところ、本年2月、目標額を突破することができた。機種は選定委員会の答申により、日立CT-W-450-10Aに決定し、ANMECの5月の開院に間に合うように寄贈され、取り付け工事が終了した。本会のこの事業に対して、日本大学農獣医学部より感謝状が贈られた。

獣医学科の近況

勝部泰次教授(獣医公衆衛生学)は、学部執行部の研究担当に再任、また、月瀬東教授(獣医解剖学)は、同就職指導担当に就任された(平成7年3月21日付)。任期満了に伴う獣医学科の主任教授には、井上勇教授(医動物学)の後任に福田陽一教授(獣医微生物学)が選出された。大学院獣医学研究科の専攻主任には稲葉右二教授(獣医伝染病学)が選出された。井上勇教授は短期大学部生活環境学科の主任教授を兼務されることになった。

○退職

望月公子教授(実験動物学)が平成6年10月31日付で、佐藤敬教授(獣医外科学)が平成6年11月2日付で、久保周一郎教授(獣医生理化学)が平成7年3月8日付で、平戸千草副手(獣医微生物学)が平成6年7月31日付で、石川亜哉子副手(獣医病理学)が平成6年12月31日付で本学を退職された。また、平戸副手の後任を務められた手島佐枝子さん(臨時職員・獣医微生物学)は、平成7年3月31日付で退職された。

○新任

高玉清恵副手(本学食品工学科卒)が獣医微生物学研究室に、高石礼副手(本学畜産学科卒)が動物病院にそれぞれ平成7年4月1日付で着任された。

○昇格

渡部敏先生(獣医生理化学)と門井克幸先生(獣医伝染病学)が教授に、落英仁先生(獣医臨床病理学)が研究所教授に昇格された。また、桑原正人先生(獣医放射線学)と金山喜一(獣医生理学)は助教授に、小坂俊文先生(獣医外科学)は専任講師にそれぞれ昇格された。

○異動

門井克幸先生は実験動物学研究室に、また小坂俊文先生は獣医外科学研究室に、畦川奈都子副手は獣医病理学研究室にそれぞれ移られた。

○海外出張

日本大学の海外派遣研究員として鎌田寛専任講師(獣医微生物学)が平成6年9月より1ヶ年の予定で英国の王立動物病研究所に留学された。また、本年10月より1ヶ年の予定で丸山総一専任講師(獣医公衆衛生学)が米国カリフォルニア大学獣医部に留学される。

(金山 喜一)

満喜葉会

◇畜産学科◇

連絡先 飼養学研究室
0466-81-6241 (内2136) 小牧 弘

平成7年度第1回役員会開催

平成7年5月13日(土)13時より学部湘南校舎第一会議室において、平成7年度満喜葉会第1回役員会が開催された。会長のあいさつの後、会則に従って会長を議長として以下の議事・報告が行われた。

平成6年度経過報告

平成6年度の事業および経過について事務局宮原晃義氏より報告され承認された。

平成6年度会計報告

平成6年度一般会計決算と特別会計決算について事務局泉水直人氏より報告され承認された。その後、会計監事井上貞夫氏より監査結果について報告された。

平成7年度事業計画

平成7年度事業計画案が事務局宮原晃義氏より提案され承認された。

平成7年度予算

平成7年度一般会計予算案と特別会計予算案が事務局泉水直人氏より提案され承認された。

新入生歓迎会を開催



恒例となっている畜産学科新入生歓迎会が5月13日、湘南校舎において開催された。この歓迎会は畜産学科と満喜葉会の共催で行われ、実施に当たっては畜産学科学術研究部の協力を得た。当日は体育館を使用してのバレーボール大会となり、新入生171名と日頃の運動不足の解消を図る上級生や教員も加わって熱戦が繰り広げられ、みんな心地よい汗を流した。その後、学部食堂棟3階NUSCホール

において満喜葉会役員を交えた懇親会が開催された。懇親会は森地学科主任教授、木村満喜葉会会長の挨拶の後開宴し、和やかに進められた。

満喜葉会50周年記念事業決定

昨年5月の役員会から継続して検討されている満喜葉会50周年記念事業について、再度話し合いがもたれた。白熱した討議の結果、平成9年5月の第3土曜日に湘南キャンパスで記念式典と懇親会(食堂棟3階NUSCホール)を開催することになった。なお、記念式典で予定している記念講演の演者については、検討中である。

受賞

満喜葉会特別会員の本学元教授姫野健太郎先生が春の叙勲において勲三等瑞宝章を受賞されました。本賞は先生の長年にわたる功績に対して授与されたものです。

退職

姫野健太郎教授(動物育種学研究室)が1月15日付で定年により退職されました。今後のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

新任教員の紹介

今春より山室 裕助手を畜産学科の新スタッフとして迎える事になりました。山室氏は昭和60年本学畜産学科卒業、平成4年同大学院博士後期課程終了後、埼玉医科大学で活躍していました。動物育種学研究室に所属し、動物育種学実習等を担当されます。



(増田 哲也)

いもづる会

◇食品経済学科◇

連絡先 地域産業研究室
03-3421-8121 (内 373) 上野 恒雄

◆いもづる会活性化委員会の検討結果

過去2ケ年に亘って議論されてきたいもづる会活性化に関する検討結果が、平成7年度総会に議案として提出された。その内容を要約すると、概ね以下のとおりである。

1、組織の改定について

- ①終身会費納入者と未納者を正会員と準会員に区別する。学生は学生会員とする。
- ②総会に代わる最高決議機関として幹事会を設置する。現在の常任幹事会は廃止。
- ③常任幹事会に代わる執行機関として役員会を設ける。
- ④副会長を担当制（総務・企画・会計・広報など）とする。

2、終身会費の運用と基金について

- ①いもづる会の活動は、会員相互の交流・懇親を深めると学科の発展を促すことに重点を置き、そのために懇親会の開催、名簿の発行、記念行事、学生の支援、学科への支援など必要な事業をおこなう。
- ②入学時納付金は主として学科・学生の支援事業に、終身会費は正会員を対象とする事業に支出する。
- ③会員全員を対象とする懇親会は2年に1回開催することとし、懇親会の企画や実施については期別、研究室、地域、職域などから委員を募る。
- ④支部活動の活性化を支援し、毎年一定額の補助金を支給する。
- ⑤会員名簿の充実を図り、会員の多様なニーズに対応できるようにする。
- ⑥会員に、学科の動向や幹事会報告、懇親会の案内など必要な情報を提供するため、ミニ会報の発行を検討する。
- ⑦いもづる会は平成10年に50周年を迎えるが、記念事業は10年ごとに実施することとし、早い時期に50周年記念事業実行委員会を創設する。なお、事業の一環として新しい会の名称やシンボルマークの募集も検討する。
- ⑧学科発展のために最大限の支援をおこなう。

◆平成7年度総会・懇親会を開催

去る6月3日（土）午後3時より平成7年度いもづる会総会・懇親会が、三軒茶屋銀座アスターで開催された。いもづる会活性化委員会の検討結果が今総会の最重要議題として提出されたが、異論もなく満場一致で可決承認された。

一方、懇親会には茂澤学部校友会会長、門田学部長はじめ出口学務担当、各分会の会長・事務局長など多数の来賓とOBが出席し、和やかな雰囲気の中で閉会した。



平成7年度いもづる会懇親会

◆学科の動き

本年10月をもって山根 勝次教授が定年退職される予定である。山根教授は20年間に亘って学科の発展に尽力されたが、とくにカリキュラム改正を含む食品経済学の確立に向けて強力なリーダーシップを発揮された。また、学部の名称変更に伴い大学院も近い将来従来の農業経済学専攻から食品経済学専攻に生まれ変わる予定であり、現在それらの手続きが進行中である。

(下渡 敏治)



林学科校友会

◇林学科◇

連絡先 木材科学・工学研究室
0466-81-6241 (内2146) 濱本 和敏

平成7年度 林学科校友会幹事会を開催

平成7年7月1日(土)に日本大学会館において平成7年度林学科校友会幹事会が開催されました。当日は各期の幹事22名が出席され、平成5、6年度の事業経過報告および平成7、8年度の事業計画等が討議されました。その中で、2年後の平成9年度は林学科創設50周年であると共に、林学科校友会創立45周年にも当たる節目の年であるため、何らかの記念行事を行うことが提案されました。また、林学科の湘南校舎への移転完了に伴い、校友の皆様へ新校舎等をご覧頂こうという趣旨から、例年、日本大学会館で行われている林学科校友会総会・懇親会を本年は湘南校舎にて行うことが提案承認されました。

学科の近況

校友の皆様方には思い深い東京校舎から湘南校舎への林学科の移転が3月末に完了しました。4月からは全学年が同一キャンパスに揃うこととなり、研究教育活動が益々盛んとなっております。

昭和59年4月より本学科の教授として研究・教育に御尽力下さいました山田房男先生(森林動物学)が、本年3月をもって定年退職されました。さらに、林学科資料室で学科全体の事務を引き受けて頂いていた黒崎浩代副手も出産のため退職されました。お二人とも今後ともご健康でご活躍されますようお祈りいたします。また、昭和33年より林学科発展のために御尽力をいただいている佐々木憲雄先生が、本年12月4日をもって定年退職されます。

山田先生の後任として筑波大学農林技術センターより山根明臣教授、佐々木先生の後任として九州大学農学部林学科より増谷利博専任講師、黒崎副手の後任として本学大学院森林科学専攻修士過程を修了された杉淵雅代副手が、平成7年4月1日よりそれぞれ着任されました。今後の益々のご活躍を期待しております。



山根明臣教授



増谷利博専任講師



杉淵雅代副手

平成6年度林学科校友会会長賞受賞者

平成6年度の林学科校友会会長賞に下記の6名が決定しました。

森林・緑地造成ゼミ：長井正晃(神奈川県庁)、林業経営ゼミ：丸山泰助(新日本建設㈱)、林地保全ゼミ：溝口直美(青年海外協力隊)、森林保護・風致ゼミ：水島久信(㈱山本松五郎商店)、住宅・木材流通ゼミ：坂本信教((自営)ランバーリング坂本)、木材科学・工学ゼミ：軽部嘉夫(パールパッケージ㈱)

学部運動会で9連勝

本年度も学部主催の運動会(5月28日)が行われ、昨年に続き優勝の栄誉に輝きました。今回は他学科も林学科の優勝を阻むべく例年になく盛り上がりおりましたが、他を寄せ付けず9連勝となりました。

林学科在籍学生数

平成7年度4月1日現在の林学科在籍学生数は下記の通りです。

1年次 166名(女子51名)
2年次 168名(女子50名)
3年次 173名(女子52名)
4年次 137名(女子35名)
大学院生 14名(女子0名)

以上、658名(女子188名)が勉学に励んでおります。最近女子学生が増えておりますが、昨今の景気低迷により特に女子は就職に苦労しております。校友の皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

林学科校友会総会・懇親会へのお誘い

平成7年度の林学科校友会総会・懇親会は10月7日(土)午後3時より湘南校舎(藤沢校舎)にて開催されます。湘南校舎の変貌には目を見張るものがあります。会員の皆様、ぜひこの機会に懐かしい六会へお越しください。

事務局からのお願い

住所変更、あるいは結婚などによる氏名の変更等がございましたら、お手数でも事務局までご連絡ください。

(宮野 則彦)

桜 水 会

◇水産学科◇

連絡先 水産生物学研究室
0466-81-6241 (内2160) 小橋 二夫

夏日の連続記録を更新した今年の夏、校友の皆様にはいかがお過ごしでしたか？

会員数の動向

本年3月に水産学科を卒業し、水産学科44期生として桜水会の新会員になられた方は160名で、この方々を加えて総会員数は5748名になります。桜水会では年1回の総会・懇親会を開催しておりますが、毎回案内を出すのが約5000通、転居先不明で戻ってくるのが200~300通あるそうです。

総会・代議員会・懇親会開催と桜水会々旗の披露

平成7年度の桜水会の代議員会および総会が東京校舎第1会議室で7月15日(土)に開催されました。代議員会で平成6年度の事業報告・決算報告ならびに平成7年度の事業計画案・予算案が承認され、引き続いて開催された総会で報告されました。総会終了後、場所を学生食堂に移して懇親会が開催され、来賓を含めて約60名の校友が出席しましたが、この数年出席する会員が限定され、年々平均年齢が高くなっていく傾向にあります。前述のように5000通もの案内を出して出席が50名足らずではあまりにも情けないものがあります。校友会活動の活性化には若



い層の参加が不可欠です。何をおいても参加して頂けるよう事務局でもいろいろと考えておりますので、皆様にも桜水会を育て、次世代に健全な形で引継ぎという気概をもって積極的に参加して頂きたいものです。

さて、この席で桜水会のシンボルとも言うべき旗が披露されました。これは現会長の山下金義氏が会長に就任された当初から、会のシンボルをと提唱され、理事会で検討を重ね、写真に示したように今回

の披露となったものです。黒地に中央に校章、その下に学科名と会の名前がいずれも大学のシンボルカラーであるピンクで書かれています。大小2振りで作られ、地方支部の会合などにも貸し出すとのこと。いずれは東京ドームのバックスクリーンにこの旗を掲げてそこで桜水会の総会・懇親会をとというのは如何でしょうか？

阪神大震災被災者にお見舞い状

本年1月17日未明に近畿地方をおそった大地震で、被災地に在住しておられる会員は63名を数えました。桜水会では早速お見舞い状を出したところ、多くの方からお礼の手紙やお電話を頂きました。被害の状況はまちまちでしたが、皆さんご無事な様子を窺い知ることができました。

学科の動向

最後に水産科学の最近の動向についてお知らせ致します。本年4月に副手として大岩弘美さんと木下淳司君が、またこの10月からは宮内浩二君が助手として採用され、さらに副手の青野英司君が助手に昇格致しました。また嶋村哲哉先生が8月31日をもって定年となりました。練習船日本大学号の初代船長として昭和40年に本学に勤務して以来約30年にわたって本学の発展にご尽力下さいました。先生の益々のご健勝を祈念致します。

さて、われわれの出身学部である農獣医学部が平成8年度から「生物資源科学部」と名称を変更するのに伴って、40数年間にもわたって慣れ親しんできた水産学科も「海洋生物資源科学科」と名称が変更になり、新たな歴史を刻むことになりました。詳細は桜水会会報20号に記載されております。

年1回発行される校友会報を通じて卒業生の動向や出身学科のことなどをお伝えするのが事務局の役目の一つと心得、取材記者の心境でいろいろと情報を集めております。皆様のご協力をお願い致します。

(吉原 喜好)



工 学 会

◇農業工学科◇

連絡先 生物生産機械学研究室
0466-81-6241 (内2181) 世良田 和寛

平成7年度理事会・役員会を開催

平成7年6月17日(土)14時半より理事会が、続いて16時半より役員会が東京校舎第1会議室において開催された。会長の挨拶の後、議長に選出された鈴木昌二氏(昭和49年卒)の進行のもとに議事が行われた。平成6年度の一般経過報告のあと、決算報告、監査報告が行われ満場一致で承認された。続いて、平成7年度の事業計画、予算案が審議・検討され平成7年度の主たる事業計画として、総会ならびに懇親会の開催と企画検討委員会の活動が議決、承認された。

平成7年度の総会ならびに懇親会は『多くの卒業生の方に整備されていく藤沢校舎を見てもらう良い機会を』の主旨のもとに11月18日(土)、湘南校舎(旧称、藤沢校舎)食堂棟3階のNUSCホールで開催することとなった。この会報の表紙の写真のように六会駅は新駅舎に、駅の前も校門もすっかり変わりました。見学に来る良い機会です。少しでも多くの皆様に参加されることを期待しております。

また、平成7年3月11日の理事会で発足が決定していた企画検討委員会がこの6月17日の理事会・役員会より本格的に稼働することになりました。酒川委員長(昭和47年卒)、鈴木(昌)副委員長(前出)、斉藤委員(昭和43年卒)、新井委員(昭和44年卒)、鈴木(重)委員(昭和52年卒)、工藤委員(昭和58年卒)の6名から構成されたこの委員会は年に3~4

回委員会を開き新たな事業の計画立案や既成事業の検討・改革等をおこなう事になっています。各委員の活躍を期待したいと思います。

学 科 人 事

平成7年4月1日、内ヶ崎万蔵助手が着任されました。



内ヶ崎先生

先生はブラジル国籍の日系2世でピソウザ連邦大学農業工学科卒業後すぐに国際協力事業団の上級技術研究生で来日し、当学科で勉学後、東京農工大学大学院に進まれ、本年3月に修了されました。現在、生物生産機械学研究室で奉職されています。これからのご活躍を期待しております。



千葉先生

千葉 豪教授は平成7年8月17日をもって定年とされました。先生は昭和57年4月、農林水産省農業土木試験場(現農業工学研究所)より着任以来、長い間、学科主任、専攻主任をされ、学科の為に貢献されてこられました。長い間ごろうさまでした。今後とも健康でご活躍されますようにお祈りいたします。

事 務 局 よ り

◇計報◇ 元農業工学科教授(現在非常勤講師)田原虎次先生が平成7年7月7日午後2時、心不全のためご逝去されました。享年77才でした。先生は日本で初めて田植機の開発を手がけるなど農業機械の分野において大きな足跡を残した方でした。謹んで哀悼の意を表したいと思います。(川西 啓文)



東京校舎第1会議室で開かれた役員会



連絡先 畜産製造実習所
03-3421-8121 (内 501) 青井 幸雄

◇食品工学科◇

30周年記念事業決まる 記念誌発行や祝賀会

平成7年6月16日(金)に東京校舎第1会議室において、F T会の創立30周年記念事業委員会が開催され、野田委員長(F T会会長)以下、委員30名が出席し、様々な提案、意見交換などが活発に行われ、下記のように記念事業の概略が決定しました。

1、名簿を含む記念誌の発行(平成7年9月発行予

定)

2、創立30周年祝賀会の開催

日時：平成7年10月14日(土) 18時より

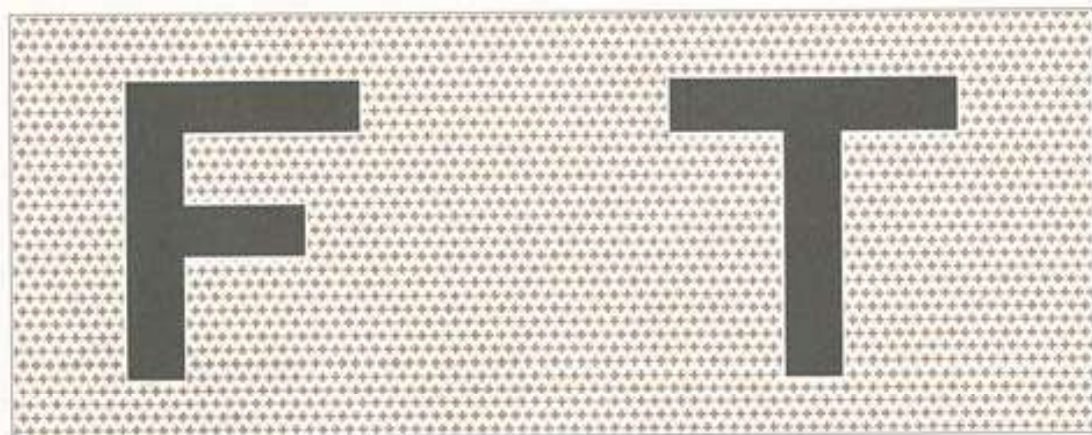
開催場所：ホテルセンチュリーハイアット(新宿)

参加費用：10,000円

以上の事業を実行するため、名簿小委員会、祝賀会小委員会、記念事業検討小委員会、協賛広告募集小委員会を同時に発起しましたので会員各位のご協力をお願いいたします。

学科名称を改称

平成8年4月より学部および学科名称が改称になる予定です。当農獣医学部食品工学科は生物資源科学部食品科学工学科に改称となり、また藤沢校舎の名称も平成7年4月より湘南校舎に改称となり、新しい学部学科のスタートとなります。



学科人事

平成7年8月までの学科人事の変動はありません。そこで各研究室の現在のスタッフをご紹介します。

- 1、食品製造学研究室(旧1研)：山内邦男教授、木村貞司助教授、平田明弘助手
 - 2、食品化学工学研究室(旧2研)：鈴木功教授、陶恵助手、和田幸子副手
 - 3、食品製造工学研究室(旧7、8研)：鈴木和威教授、鈴木公一専任講師、阿部申助手
 - 4、食品理化学研究室(旧4研)：露木英男教授、伊藤真吾助教授、竹永章生専任講師
 - 5、食品保蔵学研究室(旧5研)：矢野信禮教授、梅沢勝正助教授、荻原博和専任講師
 - 6、食品分析学研究室(旧6研)：武田明治教授、千野誠専任講師、原田真子副手
- 学科主任付 前川由紀子副手

就職ガイダンス開催

食品工学科主催の就職ガイダンスが現4年次学生(当時3年次)を対象として平成7年3月3日に東京校舎大講義室において開催されました。当日は、前回に引き続き、本学科OBの日本マンパワー株式会

社の野沢敏也氏の講演で始まり、その後個別に面談が行われました。参加企業約40社、参加学生268名と前回に増して大盛況で、就職超水河期と呼ばれる状況を目のあたりにしました。こうした状況下において、わがF T会も本年度より強力に支援をして行かなければならないと考えておりますので、何をしたら最も有効か等について、ご意見がございましたら事務局宛にご一報下さい。会員各位のご協力をお願いいたします。

学位の授与

伊藤真吾助教授(食品理化学研究室)は、「南氷洋産ミンククジラの脂質に関する研究」により日本大学より博士(農学)の学位を授与されました。

事務局より

両校舎で毎年開催されていた学部祭、三茶祭と藤桜祭は平成8年度より湘南校舎のみでの開催となり、三茶祭は今年度が最後となる予定です。本年10月21日(土)、22日(日)に開催される最後の三茶祭にご家族お誘い合わせの上、御来校下さい。

(竹永 章生)

拓 友 会

◇拓植学科◇

連絡先 経営第2研究室
03-3421-8121 (内 454) 早川 治

平成7年度総会・懇親会開催

平成7年度総会・懇親会が平成7年6月10日(土)南国酒家原宿店において開催されました。

総会は近藤会長の挨拶の後、同氏を議長に選出し議事に入りました。まず、拓植学科設立30周年記念祝賀会開催等の平成6年度事業報告・会計決算報告・監査報告が行われ了承を得ました。次に平成7年度計画・予算も了承され、OA化に伴う会則改正(役員呼称変更)も承認されました。(詳細は拓友会会報20号で報告予定)

平成6年度拓友賞は川瀬真樹・佐藤弘康君の二人が理事会において受賞決定したことが了承されました。(既報)

平成7年度奨学賞は王海平・鄭如芬さんの二人が受賞することが決定されました。

その他の議題で、今年が戦後50年であることを踏まえて、戦争で亡くなった拓友に対する慰霊祭の開催・慰霊碑の建立等を行って欲しいという提案がなされましたが、平和記念塔の建設について拓友会のみでなく農獣医学部校友会や日本大学校友会に働きかけて、全学的な規模で行動すべきであるという結論に達し、今後関係方面に働きかけていくことで了承され、総会を終了しました。

懇親会では門田定美農獣医学部長をはじめ、茂沢泉農獣医学部校友会会長、広瀬昌平拓植学科主任教



奨学賞を授与される王さんと鄭さん

授から来賓のご挨拶をいただき、工藤正城拓友会顧問の乾杯で懇親に入り、この席上で奨学生の表彰等が行われるなど、にぎやかでなごやかな懇談の輪が広がりました。なお、懇親会の席上では奨学賞のための募金も行われました。

奨学賞は王さんと鄭さんに

平成7年度の拓友会奨学賞に王海平さんと鄭如芬さんが選ばれ、懇親会の席上で奨学金(図書券)が贈呈されました。

王海平さんは中国出身の4年生で流通経済ゼミ(宮崎教授)に所属している明朗闊達な学生です。

鄭如芬さんは台湾出身の2年生で貿易・経済コースで学ぶ何事にも熱心に取り組むまじめな学生です。

二人共、表彰の後、懇親会出席者から祝福されてうれしそうな様子でした。



拓友会総会会場

拓植学科の動き

学科の名称変更を前にして、拓植学科では早くも新しい風が吹きはじめようようです。まず、林幸博専任講師が平成7年4月1日より着任されました。林先生は東京農大を卒業、京大大学院を終了して、学位をとられました。環境生態学・環境農学実験を担当されます。ご活躍をお祈りいたします。

平成6年10月、滝川勉教授が定年により退職されました。在任中は農獣医学部国際地域研究所所長を勤められるなど、活躍されました。今後も大学院の講義は担当されますが、お体に気をつけてご活躍されることをお祈りいたします。

また、新しい学科主任として広瀬昌平教授が平成7年4月1日より就任されました。同教授は農獣医学部国際地域研究所所長も兼任されており、激務となりますが、宜しくお願いいたします。

前主任の遠藤浩一教授は平成7年4月1日より大学院農業経済学専攻主任に就任されました。今後のご活躍をお祈りいたします。(緒方 行広)

むつあい会

◇短期大学部農学科◇

連絡先 植物生体制御学研究室
0466-81-6241 (内2243) 楠元 守

総会・懇親会を開催

むつあい会の平成7年度総会並びに懇親会は、6月17日15時30分より湘南校舎で開催された。

総会は、第1会議室で開かれ、富澤寿樹会長の挨拶に続いて、議長に天野六江氏(4期)を選出、平成6年度一般経過報告及び事業報告を楠元事務局長が行い、承認された。さらに平成6年度会計報告と横関敏治監事の監査報告があり、承認された。また、平成7年度予算及び事業計画も原案どおり承認された。総会では、今年は特に会員名簿をフロッピー化したこと、登録会員のうち11.3%にあたる316名が住所不明で返送されたと報告があり、住所の変更等があった場合は確実に連絡することになった。会報未着



湘南校舎で開かれた「むつあい会」総会

学科の近況

農学科では、3月に64名(44期)が卒業し、4月に58名(女子39名)の新入生を迎えた。2年生は71名で合計129名が在籍している。卒業生の進路は、学部編入学40名、就職その他24名となっている。

近年、入学希望者が極めて多く、成績も高いという状況にあり、また、女子学生が年々増加する傾向にあり、編入学希望者が70%にも達するようになった。

このような新しい時代の流れや学生のニーズに対応するために、これまでの検討に引続いて、学科名称の変更と大幅なカリキュラムの変更、および、現在の50名定員を100名に増員することなどが検討されている。

現在、学生は生物生産と環境保全の2コースに分かれており、1年生は土岐知久教授、2年生は青山友雄助教授が担任となっている。

学科の人事

本学科の発展のためにご尽力された高橋文次郎農学科長は、平成6年12月31日で定年退職されました。高橋先生の今後ますますのご健勝とご活躍を、会員

の方はご連絡下さい。また、今年は、総会のお知らせを「むつあい会報」で行ったところ、これまで以上の出席があり、今後もこの方式で総会通知に代えることになった。むつあい会報が届いたら、ぜひ日程・会場等の確認をお願いします。

総会終了後、会場を食堂棟2階に移して恒例の懇親会を開催、来賓に出口吉昭学務担当をはじめ、農獣医学部校友会会長茂澤卓氏とともに各分会会長、短期大学部農学科の諸先生のご出席と、会員および準会員(在学生)の多数の出席により盛会であった。

次回も、総会がさらに盛大に開催されるように、会員の皆様のご出席をお願いいたします。

の皆様とともに祈りたいと存じます。後任には平成7年1月1日付で楠元が命ぜられましたので、微力ではありますが高橋先生同様よろしくお願い致します。

また、化学研究室の二郷俊郎教授と園芸第一研究室の鈴木基夫教授が定年で退職されました。これまでのご尽力に対し、厚く御礼申し上げます。鈴木教授の後任には第一園芸株式会社より武田恭明教授が同室へ、二郷教授の後任には水産学科より安齋寛・助教授が新設の応用生物化学研究室へ、共に4月1日付で着任され、農学科の教員構成は教授3名、助教授5名・副手1名となった。新しく着任された両先生の今後の活躍が期待される。



武田 恭明教授



安齋 寛助教授

〈事務局からのお願い〉 会員総数2,691名となりました。住所変更・結婚などによる改姓等があった方は、事務局までご一報下さい。(楠元 守)

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

連絡先 環境科学研究室
0466-81-6241 (内2552) 飯塚 統

平成6年度の総会および懇親会が11月16日(水)18時30分より、ホテルニューオータニで盛大に開催された。総会には各分科会会長10名が出席され、当会員参加者は昨年より25名多い108名参加のもと飯塚事務局長の司会で開会、学部校友会茂沢会長、栗原科長のあいさつのあと、議長に事務局長が選出され議事に入った。平成6年度の事業計画、収支決算報告、監査報告などが行われいづれも原案どおり承認された。総会終了後、懇親会が盛大に行われ会員間、会員と教職員の親睦が一層深められた。

〈軽井沢学外研修〉

昨年に続き軽井沢学外研修が4月23日から24日の2日間、日本大学軽井沢研修所において実施された。



参加者は1年生131名(男子19名)2年生20名(男子5名)であった。この研修の目的は新生ガイダンス、

学生間および学生と教職員との交流、親睦であり、大変有意義な研修であった。

〈食生活コース、住環境コースの学外研修〉

特別演習Ⅱとして、食生活コースは7月26日、引卒業員2名、学生20名参加のもと相模原市にある国民生活センターを見学、消費者の一人としてたしかかな目で見分け、主体的に自らの力で生活の質を高めてゆくための方法等、幅広く学んだ。また翌日の27日には東京恵比寿にある麦酒記念館を見学、実りある学外研修であった。10月4日には築地市場見学が予定されている。

住環境コースは7月23日



より25日まで2泊3日の日程で京都(桂離宮、修学院離宮他)また大阪(梅田再開発地)、神戸(長田区他)を見学した。目的としては我国の伝統的、文化的作品として代表的な庭園、日本建築、都市再開発地、都市災害の実情と復興状況等住環境の視点からの知識の修得、観察力の養成等を主に行った。

井上科長をはじめとする引卒業員4名と17名の学生が参加し充実した学外研修であった。

〈コンクール入賞〉

平成6年度第21回全国造園デザインコンクール

(主催、社団法人日本造園建設業協会)において、小林菜穂子さん(2年)が佳作に入賞した。また「日比谷公園とわたし」夢・未来のみどり展(主催日比谷公園とわたし展事務局)でランドスケープ学研究室の梶川歩、石野暁子、長谷川千恵、片山明子、小笠原まいさんの5名の共同作品が応募89点中「第二花壇改造計画〜オフィス街に潤いを」、「第二花壇改造計画〜フラワーキュービック」を応募2点ともみごと入選した。



〈学内で実施される各種技能検定試験〉

(1)トレース技能検定試験(財団法人実務技能検定協会主催)

平成5年度1級2名、2級13名、3級61名、平成6年度1級1名、2級3名、3級31名の合格者を出している。試験委員は飯尾、島田両助教授、問い合わせは飯尾先生まで。

(2)ワープロ技能検定試験(日本情報処理教育普及協会主催)

試験は本学4号館のコンピュータ実習室で実施、平成5年度2級3名、3級26名、平成6年度、2級6名、3級18名が合格した。

(3)Lotus 1-2-3表計算処理技能認定試験(主催は(2)と同じ)

平成5年度2級1名、3級10名、平成6年度2級2名、3級12名が合格した。(2)(3)についての問い合わせは情報処理研究室の青山助教授まで

〈学内就職セミナーの開催〉

超氷河期といわれる就職戦々に勝つため、学内において農学科、生活環境学科1、2年生の就職希望の学生を対象に当学科卒業生から経験を学ぶ就職セミナーが6月9日開催された。卒業生9名が講師として出席され各人の体験を話され在学学生にとって貴重な資料をえることができた。

〈会員数〉

今春132名の新準会員を迎え、会員数は830名になった。また準会員(在学生)は1年生132名(男子19名)2年生128名(男子7名)である。

〈卒業生の進路状況〉

就職65名(52.8%)、編入(農獣医および他学部含)39名(31.7%)他大学編入専門学校6名(4.9%)アルバイト、その他13名(10.6%)、合計123名。

〈人事〉

栗原淳教授が本年3月をもって定年退職された。栗原先生は生活環境学科、科長としてご尽力下さった。4月より井上勇教授が科長として就任された。また副手の本田美晴さんが退職され、代って浅井理恵さんが副手として着任された。

◎事務局から 平成7年度総会は11月22日開催されます。場所、時間は後日連絡いたします。(後藤 雅弘)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 分子微生物学研究室
0466-81-6241 (内2196) 中嶋 睦安

第3回総会を開催

応用生物科学科校友会は、本年3月11日(土)、第3回総会を藤沢キャンパスの第1会議室において開催いたしました。

総会は大谷憲司会長の挨拶により始まり、佐藤嘉兵事務局員と岩淵正明事務局員から「平成6年度事業報告」と「会計決算報告」が、続いて、「平成7年度事業計画」と「平成7年度予算案」が提示されました。審議の結果、いずれも満場一致で承認されました。



懇親会で語り合う会員たち

総会終了後、懇親会が開かれ、学部執行部、校友会関係から、多数の来賓の出席を得、また準会員の学科学生も多数交えて和やかに歓談の一時を過ごしました。

会員数500名を突破

今春3月、新に153名の会員を迎えて、会員数は549名になりました。また、準会員(学科学生)数は現在1年次147名、4年次164名の計598名であります。女子学生も年ごとに増える傾向にあり、5割近くを占めております。

学科の近況

学科は現在8研究室、19名の教職員スタッフで構成されております。教職員関係では、核酸科を担当されておられました安藤忠彦先生が昨年6月定年退職され、それとともなって本年4月より、井上正助教授が教授に昇任され研究室を主宰されることになりました。同時に蛋白質科学研究室の張培淦助手が、本年4月、専任講師に昇任されました。また、生命工学(別府輝彦教授)研究室に上田賢志氏が助手と

して赴任され、さらに現在、学生実験等をお手伝いいただいております臨時職員の土岐恵子さんも、4月より副手として本学科に配属されました。このように本学科のスタッフも一段と充実してまいりました。また、今年度は学科主任と大学院専攻主任の改任の年に当たり、4月よりそれぞれ佐藤嘉兵教授、名取正彦教授が担当、学科・大学院運営に尽力されておられます。

一方、学生関係、特に4年生については、今日の社会状況を反映して就職活動に悪戦苦闘しております。学科としても卒業生を講師に迎えて就職説明会の開催や、研究室単位で対応しておりますが苦戦を強いられております。大学院関係では、今春、本学大学院後期課程に4名、前期課程に11名、他大学大学院にも25名、計40名が進学いたしました。

校友会活動

校友会活動の一環として、本校友会と応用生物科学科共催による恒例の研究室対抗のソフトボール大会(第3回)が10月10日、体育の日に藤沢キャンパスグラウンドで開催されました。各研究室チームの他に教員、大学院生チーム、さらに社会人となった卒業生も加わり熱戦が展開されました。優勝は大学院生チームで、豪華な賞品を獲得しました。本年度の第4回大会も例年通り10月10日に開催されます。卒業生の参加をお待ちしております。

事務局から

前報でもお願いしておりますように、会員の動向を的確に把握するため、転勤による住所変更、あるいは結婚などによる氏名の変更の際には、お手数ですが事務局までご連絡いただきたいと思います。また、今後の本校友会活動をより円滑に行うため、終身会費未納の方はぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。

(中嶋 睦安)



支部だより

兵庫県南部地震

輝かしい希望に満ちた1995年であってほしいと誰もが願い、その気持ちが余韻となって未ださめやらぬ平成7年1月17日午前5時46分。悲劇は唐突にやってきました。

高度文明化した大都市が直下型の大地震に見舞われたのは、日本歴史上、初めてのことであります。しかも、戦後最大の被害をもたらしました。これは、72年前に起きた「関東大震災」に準ずる被害でもありました。この地震での被害を調べました所、以下の通りであります。



死者5500人余、家屋全半壊159,544棟、瓦礫の推量1,850万t、火災数531件、兵庫県物的被害総額(推計)9兆9,630億円の国家的損失である。

「一災起れば二災起る」神戸の悲劇は、東京、大阪、福岡等過密都市ならどこで起きてもおかしありません。地震を止めることはできませんが、人命被害を最小限にすることはできるはずです。そのためには過去からその術を学ぶことが、必要ではないでしょうか？

(過去とは関東大震災と阪神大震災のことである)

地震から2週間……被災地はいま……

(筆者は建設業に勤務)

建設業者ら献身の努力

“熱き思い”と技術を携え。

阪神大震災から2週間、被災の街は再建へ向け力強く動き出している。神戸ではすでに電気が回復、遅れている水道、ガスも徐々に供給が始まり、完全復旧をめざし総力が注がれている。JRや私鉄各線、名神高速や中国道、阪神高速、一般国道においても

復旧作業が急ピッチで進み、着々とその機能を取り戻しつつある。完全復旧にはなお時間はかかるが、かつての活気と繁栄へ弾みをつけている。

被災地では、倒壊したビルや店舗、民家などの大半がまだ手つかずの状態だが、すでに一部では撤去作業が始まっている。あちこちで寸断された道路、鉄道網も日ごとに回復のスピードを増し、交通事情は着実に良くなりつつある。全国から救援に駆けつけた人や車が急がしく動き回り、それぞれの持ち場で最大限の努力を払い続けるなか、国道43号線をはじめ2号、171号など幹線道路、またJRや阪急、阪神各沿線一帯には、これまた復旧作業の応援に全国から結集した作業車が行きかい、建設省、運輸省をはじめ阪神公団、道路公団、兵庫県、神戸市などの技術職員、大手ゼネコン、地元業者らが総出動。

官民が心をひとつにして再建に立ち向っている。災害復旧に求められることは、迅速かつ的確な措置だが、現場では復旧作業に携わる一人ひとりがその使命を自覚し「一刻も早く復旧させる」との熱き思いを胸に、それこそ不眠不休で臨み、汗を流し続けている。

最後になりましたが我が大阪校友会諸兄においては、被害も小さく、復旧に従事、応援にと大奮闘している現状にあり、今年の総会は中止し、来年夏にぎやかに行なう予定であります。

連絡先 茨木市松ヶ本町5-38
0726-26-3227 野口 健一

(会長 尾崎 恒明)

10周年迎える山梨支部

山梨支部は創立10周年を迎えようとしています。記念行事を成功させるため、早くから理事会を重ね



てまいりました。9月1日には校友への総会案内を発送、本部校友会はじめ来賓の方々にも招待状を発

送します。

昭和60年11月、初代支部長の小沢寛氏は、日夜努力されて、神奈川、大阪に次いで3番目の支部発足に漕ぎ着けたわけではありますが、小沢氏は支部発足3年余りにして病気で他界されました。支部活動を模索しているところであっただけに、誠に大きな痛手でありました。

山梨支部は以来、日本大学100周年の記念行事に協力し、また数々の支部行事も会員のご協力により無事こなし、ここに本年11月の10周年を迎えることになり、大きな喜びであります。

【10周年記念式典・総会・懇親会】

日時 平成7年11月11日(土) 午後2時

場所 石和観光温泉ホテル

会費 5,000円

小沢寛氏には支部より感謝状を贈り、その功をたたえることとし、式典には子息が出席することになっています。

日大山岳部はエベレスト登頂に成功しました。校友会山梨支部は事務局の丹沢崇仁、末木隆一氏等の協力を得て10万円を寄付しました。

連絡先 甲府市塩部3-5-33
0552-52-3590 遠藤 晴正

(支部長 遠藤晴正)

高知支部の総会と懇親会

第7回校友会高知県支部(長崎収夫支部長)総会は、残暑厳しい9月2日(土)午後2時より高知市のサンライズホテルにおいて、来賓に茂澤果校友会長並びに畜産学科の木村榮一満喜葉会会長を迎え、



会員18名が出席し開催された。

総会は、長崎支部長の挨拶で始まり、総会についての経緯や今後の支部活動について説明がなされた後、茂澤校友会長より全国の支部活動状況等が詳し

く報告された。続いて、木村満喜葉会会長から大学の近況と今日置かれている学部(生物資源科学部)の現状についてと10周年目標として激励の祝辞を戴いた。

議長に長崎支部長選任、議事に入った。1. 事業報告——中西孝彦事務局 2. 会計報告——松村春樹氏 3. 監査報告——森田稔雄氏とつづきそれぞれ満場一致をもって承認された。

引き続き、竹村守輝(角笛会第11期生)の音頭で懇親会を開宴し各自自己紹介のもと盛会裡に午後6時に日本大学の校歌を森田稔雄(満喜葉会第25期生)指揮の元斉唱し、中西正昭副会長から日本大学の益々の発展に期待するとともに皆様のご健勝と発展の言葉で閉会した。

連絡先 高知市高須1716-88
0888-82-8378 中西 孝彦

(事務局長 中西 孝彦)

台湾支部活動状況

本年の農獣医学部校友会台湾支部総会は五月二十日台北市来来大飯店に於いて挙行之、その開会にあ



たり母校農獣医学部校友会茂澤果會長、木村貞司事務局長、台湾日本大学校友会張武雄會長、何是耕副會長、蘇振杰顧問の御光臨をお迎え、廖富徳理事司會のもとに、先づ本支部長(林義謙)の開会の挨拶後引き続き貴賓各位の御祝辞あり、特に茂澤會長の『母校の近況と將來の展望』 木村事務局長の『母校外國留学生(特に台灣)実況と動向』並びに農獣医学部及びその分科等の名稱を変更する予定で、目下その作業中である。之等に就いての講演は會場一同より深甚の感謝と熱烈の拍手を以て歓迎されました。

本總會に於ける討論の主要事項は次の通り。

一、本支部と母校校友会並にその分會、各県支部との交流促進。

二、母校の台湾留学生に對する許容人数の増加促進。

三、学業特優の留学生に對する受賞案の検討。

四、校友一層の親睦を計る為、家族同伴で旅遊活動の提倡。

以上の諸項に就いて、熱烈なる討論がありました。之等の諸問題は勿論学校當局と校友会の御支持、御協力が必要だと存じます。

引續き懇親會に入り會はなごやかな雰囲気でも満に閉會しました。

七月八日午後三時から東京都新宿センチュリーハイアットホテルに於いて日本大学農獣医学部校友会總會が舉行され、台湾支部長（林義謙）と張彬茂理事が總會に参加させて頂き、誠に光榮に存じます。

總會は、茂澤果會長主持のもとで、提案六項目の議事、悉く満場一致可決して円満に閉會しました。後祝宴に入り多数の來賓と校友が参加し、又來賓の祝辞もあり、會は盛大で終了しました。懇親會に移り、各分會別に校友の紹介をなし、又拓友會校友が團を組織して台湾訪問する予定に関し懇談あり、午後八時過ぎ散會した。

最後になりますが總會の成功を祝福し、大学及校友会の御發展と校友各位の御健勝を心より祈念致します。

連絡先 中華民國台灣省屏東市杭州街39-2
08-7330131 林 義謙

（支部長 林 義謙）

山形県支部農獣医学部總會

『山形県支部農獣医副會長に異動あり』

昨年、同支部農獣医学部副會長渡辺欽一氏（獣昭25年卒）が他界されました。渡辺さんは同支部発足に奔走され今日の支部ができたわけで、誠にありがとうございました。空席となった副會長に

は、工藤昌司氏（獣昭25年卒）が選出されました。

『幹事会を毎年9月に開催』

總會を毎年盛大に——こんな願いをこめて各学科代表17名が集って幹事会を開催しております。本年度は2月25日に上ノ山温泉で一泊で行われました。会員数600名と多い割には總會出席者は毎年40名～50名程度です。100名は出席してほしい——こんな願いをこめて幹事会が開催されます。



『講演会を開催』

会員は多士済済の方々ばかりです。1回目は會長の田中氏にお願いし、「私の歩んだ農学への道」、2回目は顧問の梅澤氏にお願いし、「とき、おりおりの話」の演題でご講演いただき大変好評でしたので当分続行されることでしょう。

『会員の皆様へ』

星霜移り、会員の方には70歳を越えた方も出席されます。同じ学窓を巣立ったということで、一泊の懇親會は先輩も後輩もなく、まさに百花擲乱です。大変楽しく勉強になります。是非出席下さるようお願い致します。

連絡先 山形市大字門伝1,061-4
0236-45-2042 安田 勇

（幹事長 安田 勇）



日本大学農獣医学部校友会役員・事務局名簿

名誉会長 門 田 定 美(水産)

会 長 茂 澤 果(農化)

副会長 富 澤 寿 樹(短農)

〃 日比野 次 郎(獣医)

〃 山 下 金 義(水産)

幹 事 西鳥羽 曙(農学)

〃 浅 野 明(農学)

〃 坪 木 良 雄(農学)

〃 江 刺 啄 磨(農化)

〃 木 嶋 弘 倫(農化)

〃 若 尾 良 知(獣医)

〃 吉 田 仁 夫(獣医)

〃 木 村 栄 一(畜産)

〃 平 田 芳 弘(畜産)

〃 小 牧 弘(畜産)

〃 三 木 敏 夫(食経)

〃 村 山 進(食経)

〃 上 野 恒 雄(食経)

〃 鹿 野 忠(林学)

〃 大 川 富士雄(林学)

〃 濱 本 和 敏(林学)

〃 日 野 演 彦(水産)

〃 奥 本 直 人(水産)

〃 村 田 昇(農工)

〃 吉 川 宏 一(農工)

〃 鈴 木 昌 二(農工)

〃 野 田 義 人(食工)

〃 中 村 清 一(食工)

〃 青 井 幸 雄(食工)

〃 近 藤 良三郎(拓植)

〃 水 野 包 男(拓植)

〃 浜 口 喜 博(拓植)

〃 山 本 正 義(短農)

〃 楠 元 守(短農)

〃 岡 崎 祥 子(短生)

〃 本 田 智 子(短生)

〃 飯 塚 統(短生)

〃 大 谷 憲 司(応生)

〃 中 村 親 民(応生)

〃 津久井 通(応生)

監査員 水 野 包 男(拓植)

〃 小 泉 香 織(短生)

〃 渡 邊 真(応生)

監 査 山 根 勝 次(食経)

〃 西 山 栄 一(農学)

〃 野 田 郁 夫(林学)

事務局長 木 村 貞 司(畜産)

局員 本 江 一 郎(林学)

〃 世良田 和 寛(農工)

〃 丹 羽 美 次(畜産)

〃 千 野 誠(食工)

校友通信コーナー

茶華道で心を養う

水産学科教授 廣瀬 一美^{ひとみ}

水産学科を卒業（昭和37年＝1962年）、当時クラスで紅一点で友達に迷惑がられる事もあった。原因は実習などで出かけた折、友人は一東で部屋に入られるが、私のみ一部屋、大の字になってもまだまだ広すぎるもので友達には悪い事をした様に思ったものである。あれから日本大学教員として30年、今年44期の学生まで29回の卒業生を送り出したことになる。



アメリカのお客さまと

研究室は四月より魚医学研究室（日本で唯一のもので一般的には魚病学と考えると頂ければ良い）では、学科のやる気十分の院生と4年次学生、そして教員一名で悪戦苦闘をしながら頑張っている。世に言う肝魂母さんである。

一方、茶華道部顧問としても30年、全ての学科の学生に親しく付き合って個別指導と免許取得希望者

に正教授である私の名前で出すことが出来、学生時代に一段階でも資格を上げておけば費用の節約になり、自信につながるはずである。クラブ活動も勉強も前向きであれば人生の山や谷を通過出来る素質を備えた人と考えてまず間違いないと言える。本職の他に心の健康を保つためには趣味をもち人間の幅を拡げる必要があり、その手助けをさせて頂いているのが現状である。

茶道・華道は農獣医学部にぴったりのクラブである。湘南校舎の豊かな自然の中で感性を高めてゆくことは学問にも、日常生活にもプラスの効果があり、さらに日本の伝統的文化を通して心を育成し、自分の財産として欲しいと考えている。そのために熱をいれすぎ学生から厳しすぎると言う評価を得ているが、私の学生を育てると言う真心と信念だけは忘れないで欲しいと思う昨今である。

一方、日本文化にたずさわっていることが国際交流にも役立ち国際学会の時など自宅茶室で楽しい茶会を催し、外国滞在中の一時をやすらいで頂いていることは意義深いのではと自負している。

（昭和37年3月卒業、桜水会11期）



表紙写真の説明

（左上）小田急線六会駅新駅舎（右上）新校門
（左下）小田急線より見た本館（右下）アニマルメディカルセンター

発行所

日本大学農獣医学部校友会

（東京校舎）〒154 東京都世田谷区下馬3の34の1
電話 03-3421-8121 内線 354
FAX 03-3421-4744

（湘南校舎）〒252 神奈川県藤沢市亀井野1866

電話 0466-81-6241

編集・発行 会報編集委員会

委員長 富澤 寿樹

印刷所 東京商工株式会社